

●ゾーニング案と導入機能イメージ

- ゾーニング案
3つのゾーンはそれぞれ機能連動させることで、エリア一体開発におけるシナジーの最大化を図る。さらに、道の駅いたこや水郷潮来バスターミナル、前川運動公園など、既存周辺施設との相互連携も見据えて、各ゾーンの適切な配置、規模を検討する。
- 導入機能イメージ
各ゾーンの導入機能については、構想段階でのイメージを整理しているが、検討を具体化する中で、参画が想定される企業との意見交換や法規制緩和の実現性等を踏まえて、精査を行うこととする。



- 検討の進め方
本事業は、都市公園等の公共機能整備を伴う面的なまちづくりとなることから、市が主体となり民間活力導入を見据えて、対象地一体の開発を進めることを想定する。各ゾーンの検討の進め方は以下の通り。

スポーツ・賑わいゾーン	● 鹿島アントラーズFCと協議を行い、導入機能や事業手法等の具体化について検討する ● 鹿嶋市と鹿島アントラーズFCで検討中の新スタジアム整備の進捗状況を踏まえて、事業スケジュールについて検討する
都市公園ゾーン	● 公園整備の考え方や条件、課題等を整理し、公園整備の方向性について具体化を行う ● 方向性の具体化にあたっては、市民や鹿島アントラーズFC、本事業に参画が期待される民間事業者等の意向・見解について把握を行い必要に応じて、検討へ反映する ● 民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担軽減、都市公園の質の向上、公園利用者の利便性向上に繋がる整備、運営手法を検討する ● 事業スケジュールについては、スポーツ・賑わいゾーンの進捗を考慮しつつ、都市公園ゾーンの検討を進められるよう留意する
観光・交流施設ゾーン	● 民間事業者のノウハウを活かすことが必要と考えられるため、民間事業者と力を合わせることを前提に、賑わい創出や集客に繋がる施設の整備・運営について検討する ● スポーツ・賑わいゾーンや都市公園ゾーンの検討と並行して、開発事業者や立地企業となり得る事業者等との意見交換を行い、対象地の立地ポテンシャルや民間事業者の参入意欲等の把握を進める